

**具体的な施策・重要業績評価  
指標（K P I）進捗状況評価票  
【対象：平成 30 年度】  
（確認用）**

## 具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:平成 30 年度)

基本目標	1	市内産業の振興と起業・創業の推進による雇用の確保
基本的方向	1	市内産業の経営安定化による雇用機会の維持(経営基盤の強化)
具体的な施策	②	多様な人材の就労支援
主担当課	住宅勤労課、地域コミュニティ課	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就労意欲のある方が積極的に地域で活躍できるよう、若い世代の就業機会の拡大、働く意欲のある高齢者の就業機会の提供などを支援します。</li> <li>・ 講座を開催するなど、出産や介護などの理由により離職した女性の再就職を支援するとともに、市内企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取組についての啓発を進めます。</li> </ul>	

### 1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① いきいきワーク府中の就職率	%	36.8					
		32.1	27.2	26.4	24.8	24.2	—
		/	C	C	C	C	
② 女性向け再就職支援の講座数	講座	現状値以上					
		5	5	5	4	3	—
		/	A	A	A	B	

※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。  
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。  
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

## 2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①高年齢者の職業紹介事業は自所求人開拓を積極的に取り組み、就職者数 221 人、来所者数 2,086 人、自所開拓求人数 2,343 人と都内でもトップレベルの実績をあげている。定年の引上げ等により高年齢者の就労機会がさらに厳しさを増している状況の中、<b>懇切</b>丁寧な対応を行い再就職につなげた結果、就職者数は年間 220 人前後を堅持している。求職登録者数は増え続けており、評価指標として就職率は低下する結果となった。市とセブーンイレブンの地域活性化包括協定に基づく「シニア向けお仕事説明会」の開催、多摩地域にあるアクティブシニア就業支援センターと連携した就職面接会の開催、並びにハローワーク府中、東京しごとセンター、東京都労働相談情報センターとの共催による就職支援セミナーや合同就職面接会の開催により、高年齢者の就労相談や就労機会を提供した。</p>
B	<p>②商工会議所、東京しごとセンター、東京しごとセンター多摩と連携し、再就職支援講座を 3 講座（延 18 回）実施し、出産や介護等の理由により離職した女性の再就職を支援した。なお、受講者 132 人のうち、就職につながった人数は 14 人であり、昨年度が受講者 113 人のうち就職につながった人数が 24 人であることから、就職率を高めていく必要がある。</p>
【令和元年度における取組など】	
<p>①ハローワークの求人情報に加えて、勤労者福祉振興公社が独自に集めた求人情報を提供して実施する概ね 55 歳からの無料職業紹介事業「いきいきワーク府中」に対して引き続き支援していく。求人数及び就職者のニーズに対応するため、ハローワーク府中、東京しごとセンター、東京都労働相談情報センター等と連携を図り、再就職支援講座や就職面接会を行い、高年齢者の再就職を支援していく。</p> <p>②引き続き、東京しごとセンター、東京しごとセンター多摩と連携した講座を開催するほか、主催講座を開催するなど、出産・育児・介護などの理由により離職した女性の再就職を支援していく。</p>	

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。  
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。  
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

### 3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>①の実績については、目標値36.8%に対して、平成30年度は▲12.6ポイントであり、評価の面では厳しい状況である。また、平成27年以降、達成率が毎年低下しており、今後の対策の必要性が求められる状況である。担当課の分析によると、就職数は横ばいで推移しており、原因は利用者数の増加にあるとのことであるが、求人開拓数が増えている状況の中、就職率が減少しているのは、求人と求める職種とのミスマッチが発生している状況が考えられ、利用者が求める職種の開拓に力を入れるなどの対策とハローワーク等との連携強化による就職率の向上が求められる。</p> <p>②女性向け再就職支援の講座については、昨年度は4講座で延べ20回開催しているが、今年度は3講座延べ18回の開催にとどまっている。但し、受講人数については昨年度が113名のところ、今年度は132名となり、事業としては概ね順調に推移していると認められる。今後、さらに利用者のニーズに合った講座となるよう、また、就職に結びつく内容となるような講座の運営として欲しい。</p>
B	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。  
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。  
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

## 具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:平成30年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保		
基本的方向	2	地域コミュニティの活性化		
具体的な施策	②	空き家などの活用		
主担当課	環境政策課	関連課	住宅勤労課、地域コミュニティ課	
施策概要	・空き家や空き店舗などは、地域活動に活用できる重要なストックであることから、これらを有効活用し、地域コミュニティ拠点の整備などを目指します。			

### 1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 空き家等を活用した コミュニティ活動 事例	人	実施					
		未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	—
		/	C	C	B	B	

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。  
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。  
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

## 2 進捗状況評価（担当課）

【平成30年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度は、空き家を予防する観点から適正管理の重要性と、空き家になったことに伴う、近隣への影響を多くの市民の方に理解してもらうために、空き家に関するセミナーを延べ5回（うち1回は、調布市、府中市、狛江市の3市連携）開催した。また、同じく空き家対策実施の必要性を啓発するため、DVDを使った勉強会を3回開催し、セミナーと勉強会を合わせて延べ約200名（うち、120名は府中市民）の方の参加があった。</li> <li>さらに、空き家等の有効活用を促して地域コミュニティの活性化に向けた取組みを進めるためにも、セミナー終了後に売却、賃貸、除却等の利活用も含めた無料相談会を延べ4回実施し、20組以上の空き家の所有者の参加があった。</li> </ul>
B	
【令和元年度における取組など】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家の利活用について、府中市空き家等対策計画に則り、空き家対策は所有者等による自己管理にあるという原則との整合を図りながら進めていく。</li> <li>前年度に引き続き、空き家に関するセミナーや相談会の実施を継続することで、より多くの市民の方に、空き家に関する理解を深めていただき、利活用等につなげていく。</li> </ul>	

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。  
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。  
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

### 3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<p>・平成30年度は、空き家に関するセミナー、DVDを使った勉強会などを開催し、延べ約200名の参加があり、セミナー終了後の無料相談会では、20組以上の空き家の所有者が参加し、空き家の活用に関する知識の習得につなげたことにより、更なる空き家対策等推進及び啓発、活用が進められることを期待したい。</p>
B	<p>・さらに、空き家を活用したい方々向けのセミナー開催を継続し、目標達成に向けて、空き家等を活用したコミュニティ活動の具体的な施策が進められることを期待したい。</p> <p>※平成30年12月に“World Habitat Awards”「最優秀賞」を受賞したNPO 法人「リトルワズ」(東京)の取組を紹介する。</p> <p>リトルワズは2012年より母子家庭を対象にした居住支援を実施し、住宅を提供するだけでなく、生活の支援を同時に行い、母親と子供の生活に貢献している。また、社会問題である空き家も活用し、リノベーションして、住めるような住宅にしたり、物件所有者にも活用を提案している。東京都をはじめとした行政機関、不動産専門企業、地域団体とも連携しながら、母子家庭に住まいを提供し、6年間で300世帯以上を支援した。</p> <p>(リトルワズ ホームページ、2019年1月22日朝日新聞記事より引用  <a href="https://ameblo.jp/littleones/entry-12425763756.html">https://ameblo.jp/littleones/entry-12425763756.html</a>)</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。  
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。  
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。